

WBC検査結果概要

相馬市でのWBCによる内部被ばく検診結果（14）
令和5年度

1. 検査時期：令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
2. 受診者：相馬市民 2,282人（大人602人、子供 1,680人）
3. 検査機器：キャンベラ社製ホールボディカウンター（相馬中央病院、公立相馬総合病院）を使用し、セシウム134および137に由来する放射線を測定しました。機器の測定検出限界は、約4Bq/kg（250Bq/body）です。今回の結果は、相馬中央病院および公立相馬総合病院での測定結果をまとめて集計しています。子供の集計には令和5年9月から12月に行われた学校集団検査での検査結果も含めています。
4. 検診結果の説明

①図1-1、1-2：今回の測定で放射性セシウムが検出された方は、大人10名で、子供の検出者は0名でした。セシウムが検出された方は未検査の山菜やきのこを食したことが原因と考えられます。微量の検出はありましたが、20Bq/kg以上を検出した方はいませんでした。

②図2-1、2-2：平成24年度から令和5年度の月別受診者数と年度別のセシウム検出率の推移をグラフで表しています。セシウムの検出率は、昨年度に続き令和5年度も低い検出率となっています。

③図3：学校で集団検診を実施していることから、6～15歳の受診者数が多くなっており、次いで60歳以上の受診者が多く見られます。一方、16～39歳までの受診者数が低くなっています。

④図4-1、4-2：アンケートの結果、内部被ばくの原因として気になる食材について子供と大人の割合の差はないです。食材別で見ると、キノコ類について気にしている方が多い傾向にあります。全体的に平成24年度に比べて不安度は低くなっています。

⑤図5-1及び5-2：食材は、多くの方がスーパーで流通しているものや、検査済の地元または家庭でとれた食材を摂取されており、未検査の食品の摂取を続けている方は少ない状況です。これは子供と大人で傾向は大きく変わりません。

⑥図6-1及び6-2：水に関しては、飲料水は市上水道とミネラルウォーターを大多数の方が使用されているのに対し、調理水は市上水道を使用されている方が多い傾向にあります。これは子供と大人で傾向は大きく変わりません。

⑦図7-1及び7-2：受診者の98%が今後も検診が必要と回答し、その中で希望者のみ年一回実施してほしいという回答が一番多いことがわかりました。相馬市では、今後も年一回の受診を勧めることとし、WBCでの内部被ばく検診業務を続けていきます。

【結果の総括】

令和5年4月から令和6年3月末までの内部被ばく検査集計結果についてご報告いたします。

今回の検査結果によれば、子供たちからはセシウムが検出されず、検出された方でも、国が定める年間目標値である1mSv/年に比べ、非常に低い値となっております。このことから、現在の相馬市における生活で、慢性的な内部被ばくが問題となるレベルではないことが確認されました。

また、食品についても、特定の産地に限定することなく地元産の食品や水道水が十分に安全であることが、内部被ばく検査により裏付けられています。この安全な状況は震災後、長期間にわたって維持されております。

東日本大震災から間もなく14年が経過しようとしています。市では今後も各種の放射線検査体制を維持し、検査結果を公表していきます。これにより、市民の皆さまの不安を少しでも解消するよう、放射線に関する正しい情報を継続的に発信してまいります。

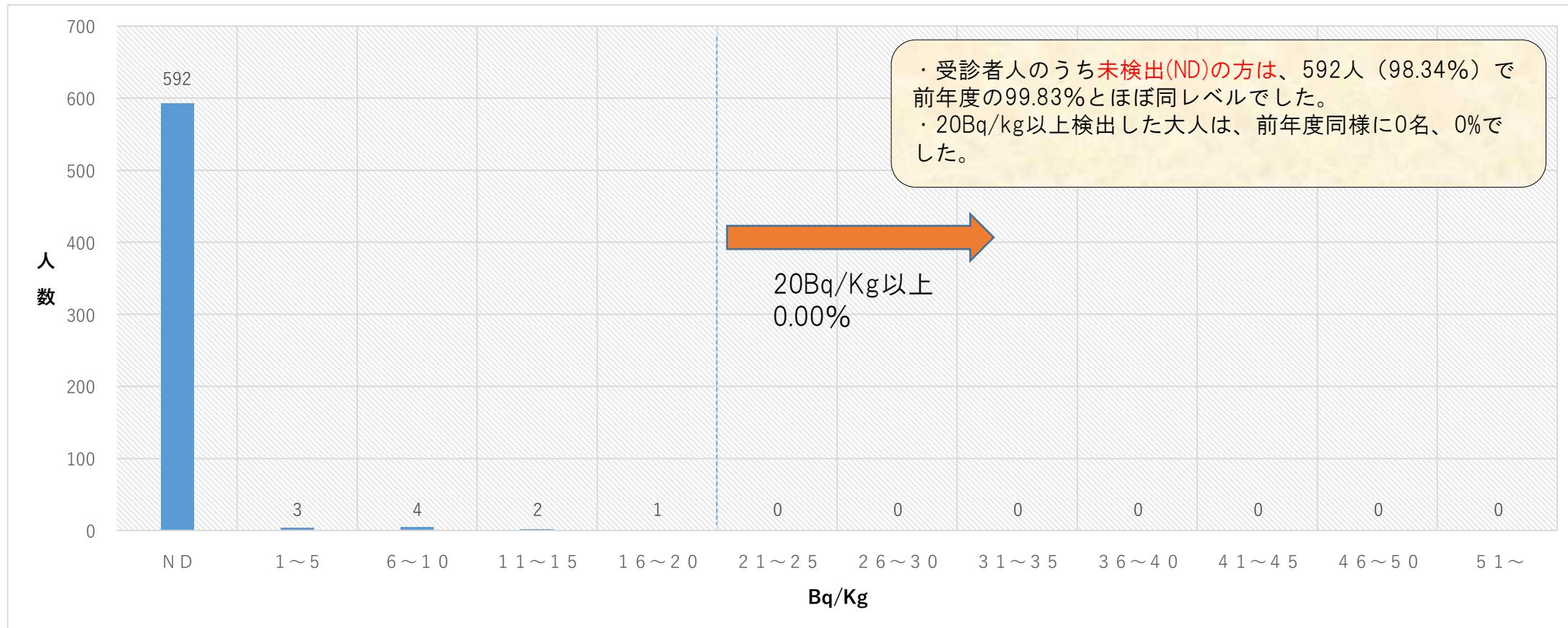
引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年2月5日

相馬市長 立谷 秀清

図 1-1

セシウム134、137の体内放射能量別の被験者数
通期R5/4/1～R6/3/31 (n=602) 大人(高校生以上)



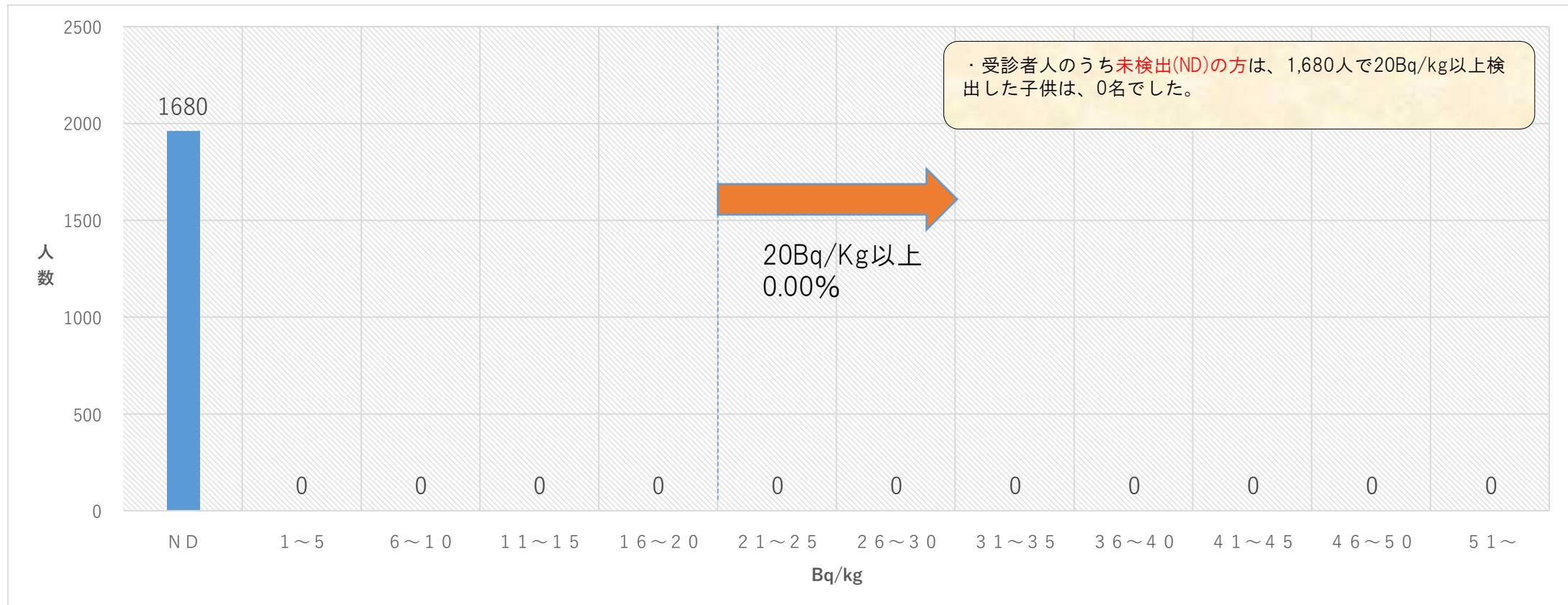
放射性セシウム量 (Bq/Kg)

ND	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～50	51～
592	3	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0
98.34%	0.50%	0.66%	0.33%	0.17%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

検出限界は250 Bq/body (体重60 Kgの方で4 Bq/Kg程度) です。

図 1-2

セシウム134、137の体内放射能量別の被験者数
 通期R5/4/1～R6/3/31 (n=1680) 子供(小学生以上中学生以下)



放射性セシウム量 (Bq/Kg)	ND	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～50	51～
1680	1680	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

検出限界は250 Bq/body (体重60 Kgの方で4 Bq/Kg程度) です。

図2-1

月別受診者数の推移

平成24年6月～令和6年3月

令和5年度

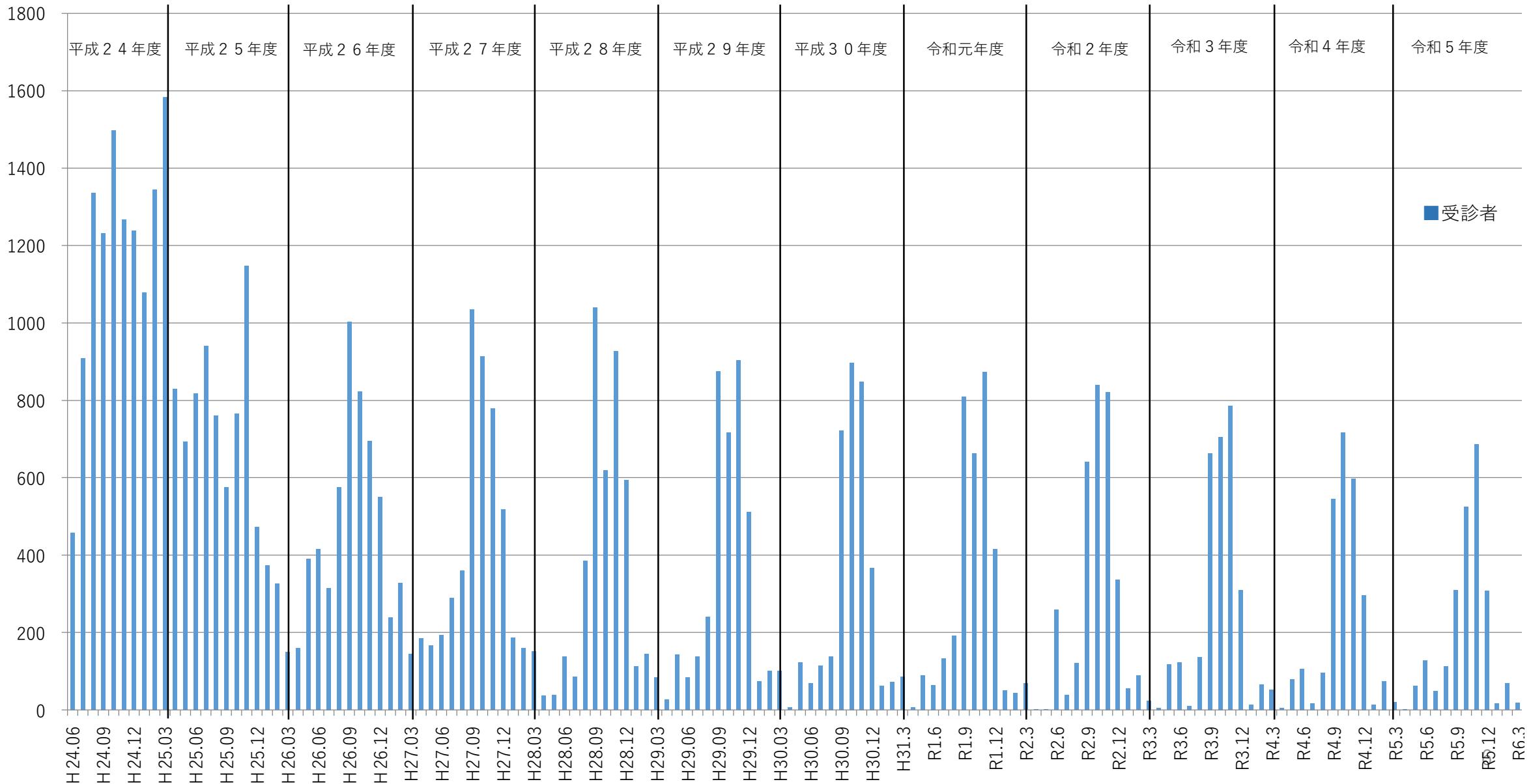
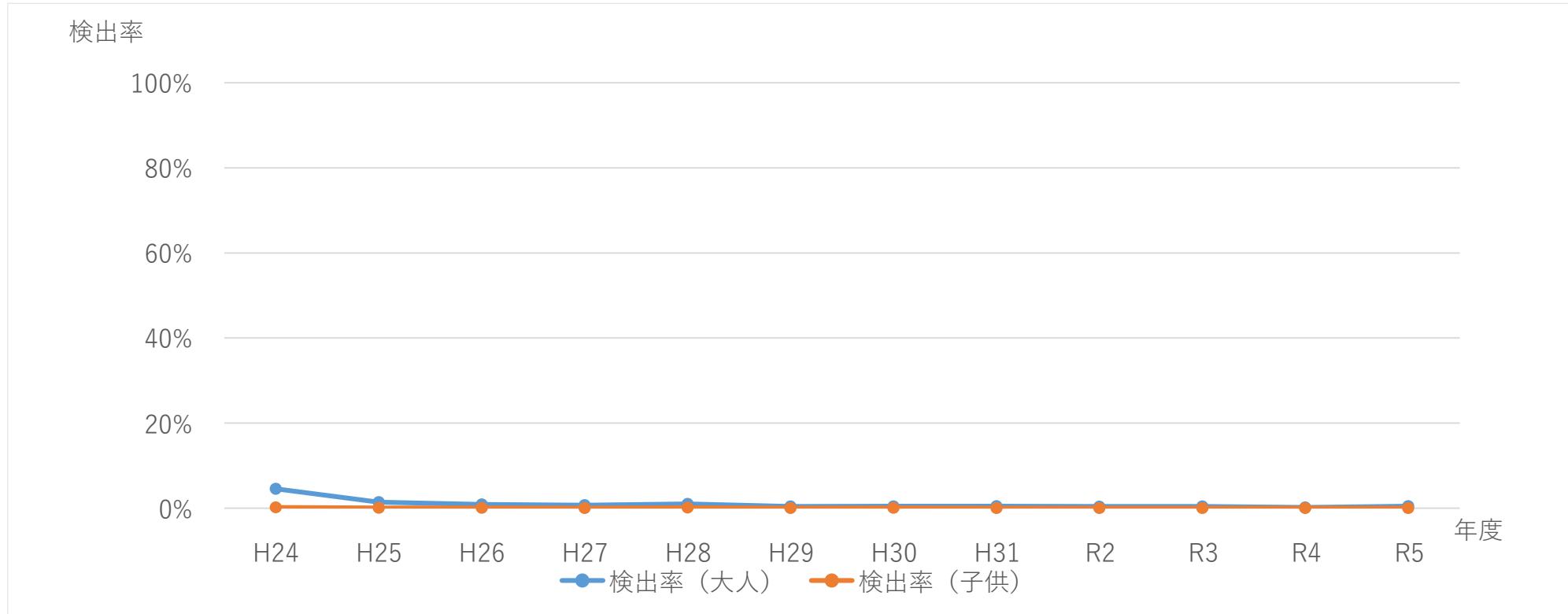


図 2-2

年度別セシウムの検出率の推移

平成24年6月～令和6年3月

一般+学校検診



※検出率は、セシウム134またはセシウム137のいずれか、または両方が検出限界以上の場合を「検出」としています。
※大人は高校生以上、子供は小学生以上中学生以下と定義しています。

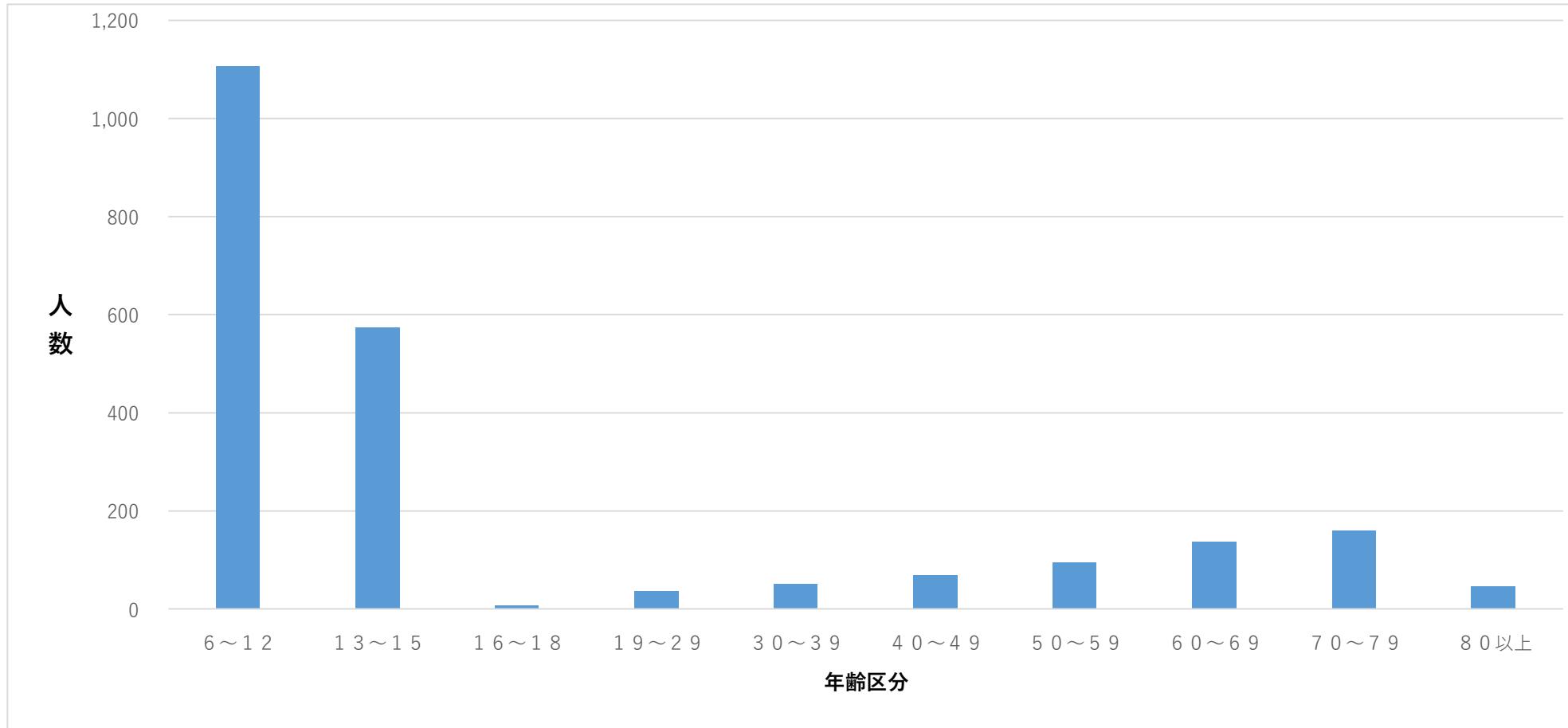
※平成24年度は年度途中から検査が開始されたため、6月から3月までの10か月間の集計が基になっています。

図 3

年齢別受診者数

令和5年4月1日～令和6年3月31日

一般+学校検診



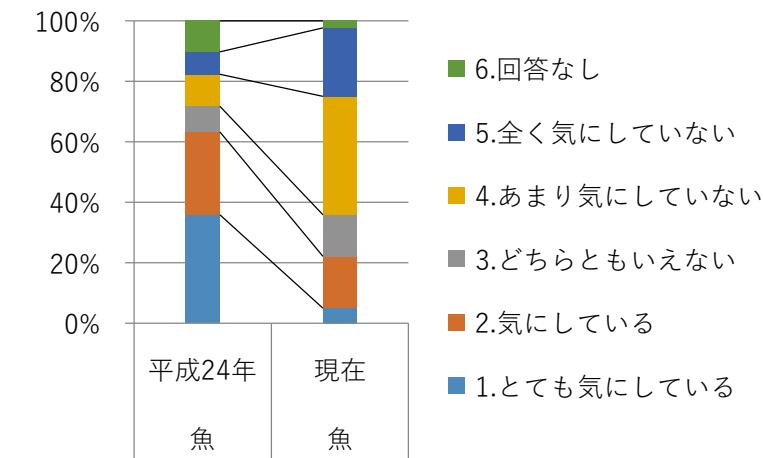
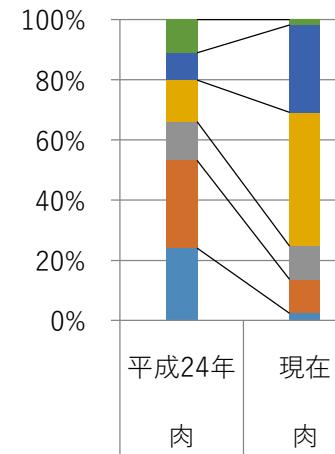
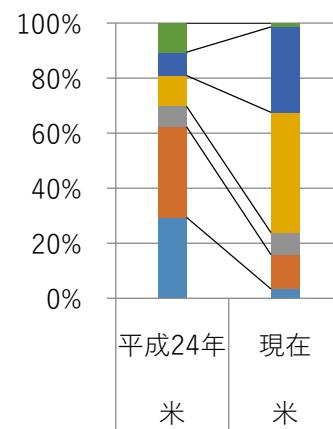
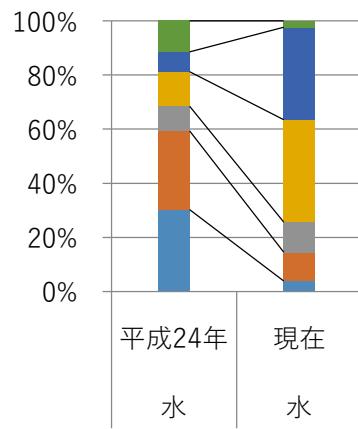
年齢区分	6～12	13～15	16～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上
受診者数	1107	574	8	36	51	69	95	137	159	46

内部被ばくの原因として気になる食材

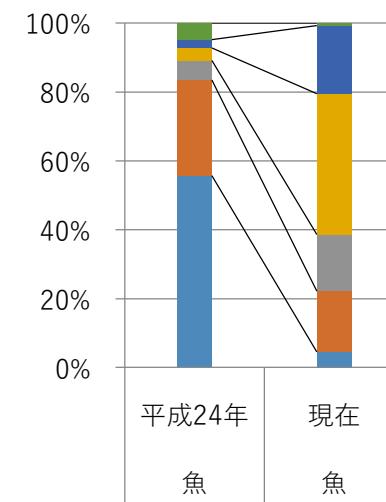
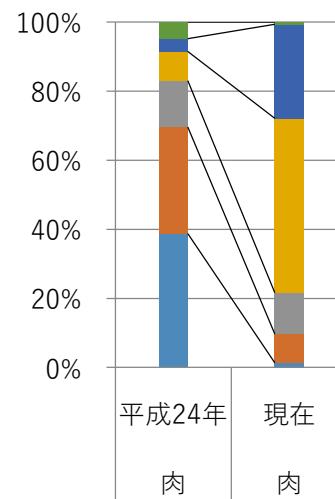
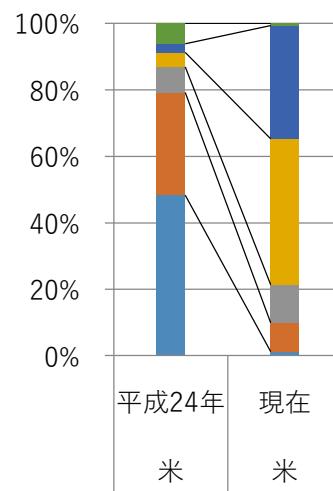
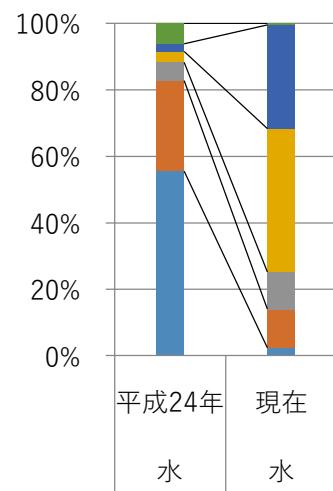
一般+学校検診

図 4-1

大人



子供



子供は小中学生
(6歳から15歳)

大人は高校生
(16歳以上) 以上

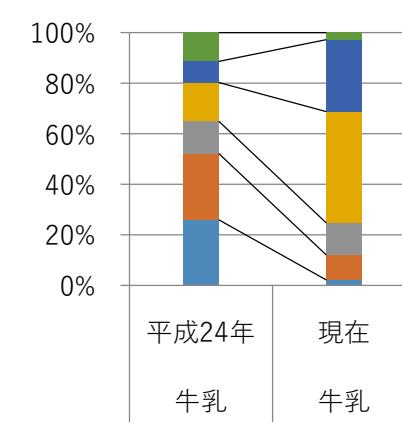
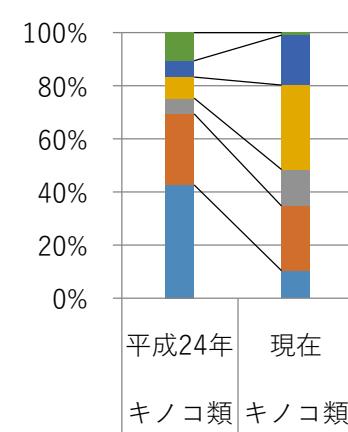
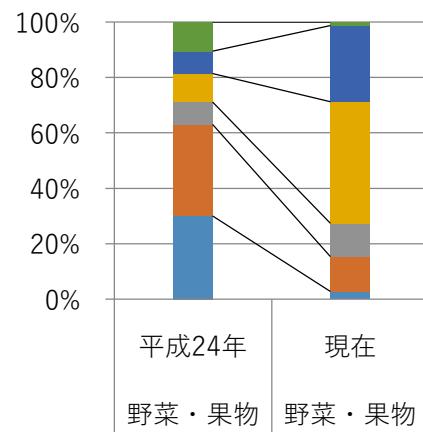
内部被ばくの原因として気になる食材

一般+学校検診

図 4-2

大人

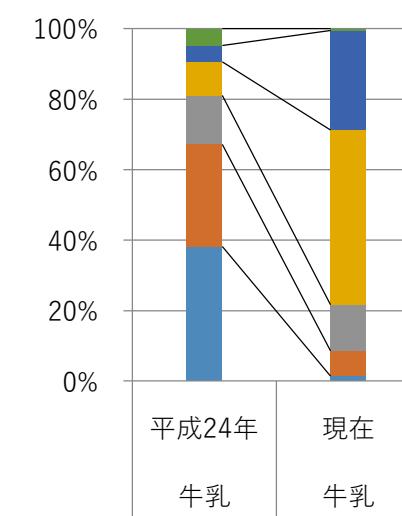
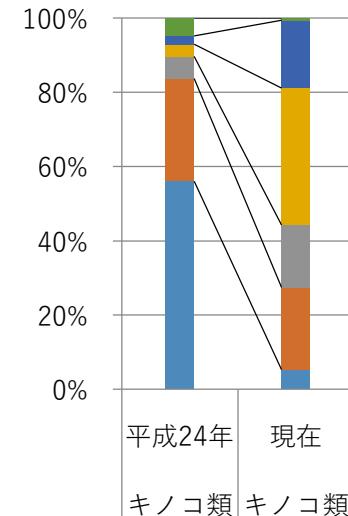
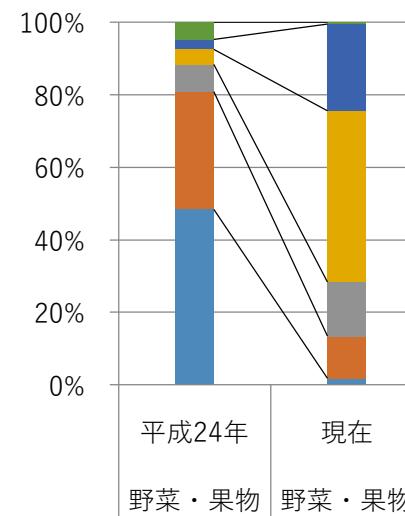
頻度



- 6.回答なし
- 5.全く気にしていない
- 4.あまり気にしていない
- 3.どちらともいえない
- 2.気している
- 1.とても気している

子供

頻度



子供は小中学生
(6歳から15歳)

大人は高校生
(16歳以上) 以上

子供は小中学生（6歳から15歳）、
大人は高校生（16歳以上）以上です。

図 5-1

食べ物の調達方法

一般+学校検診

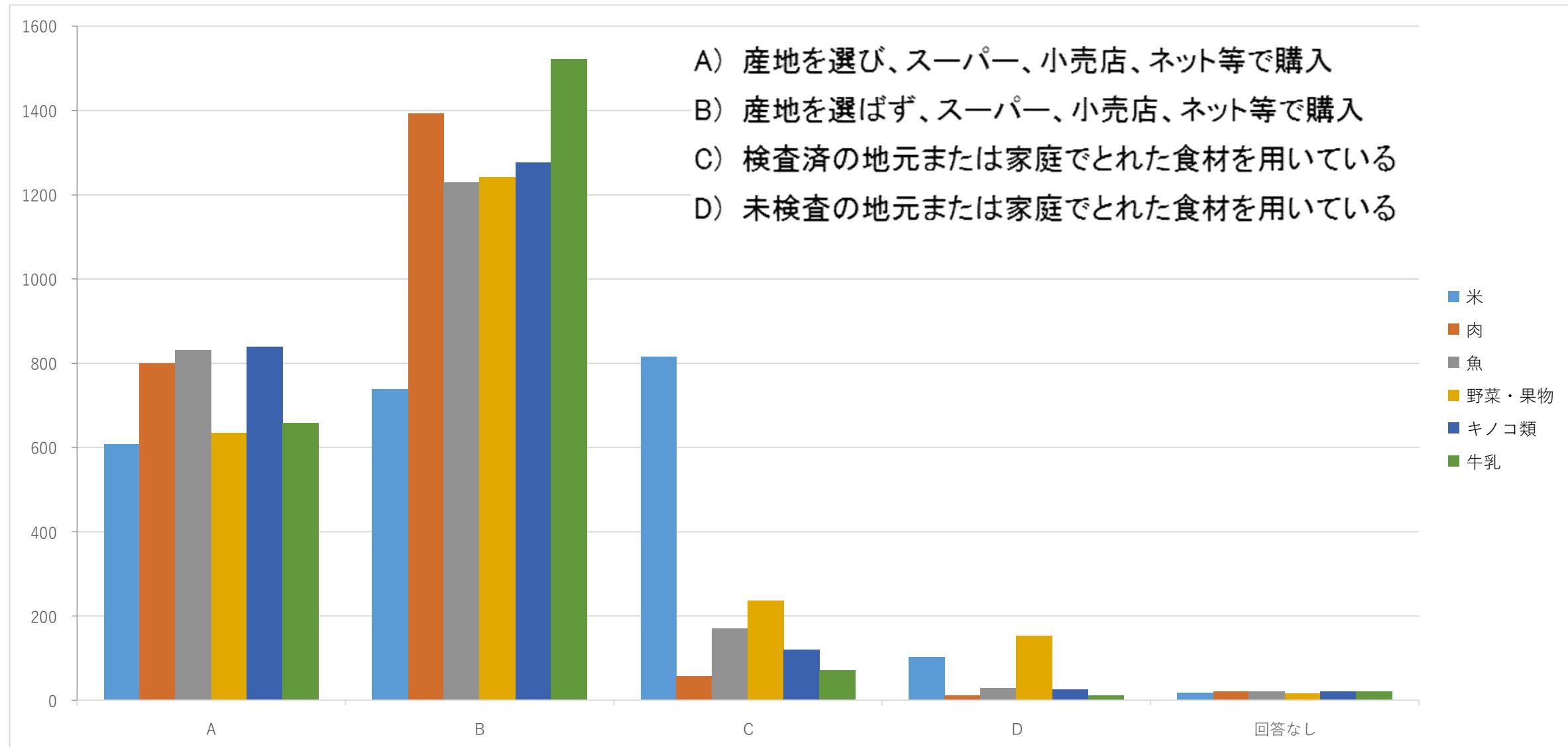


図 5-2

食べ物の調達方法

学校検診のみ

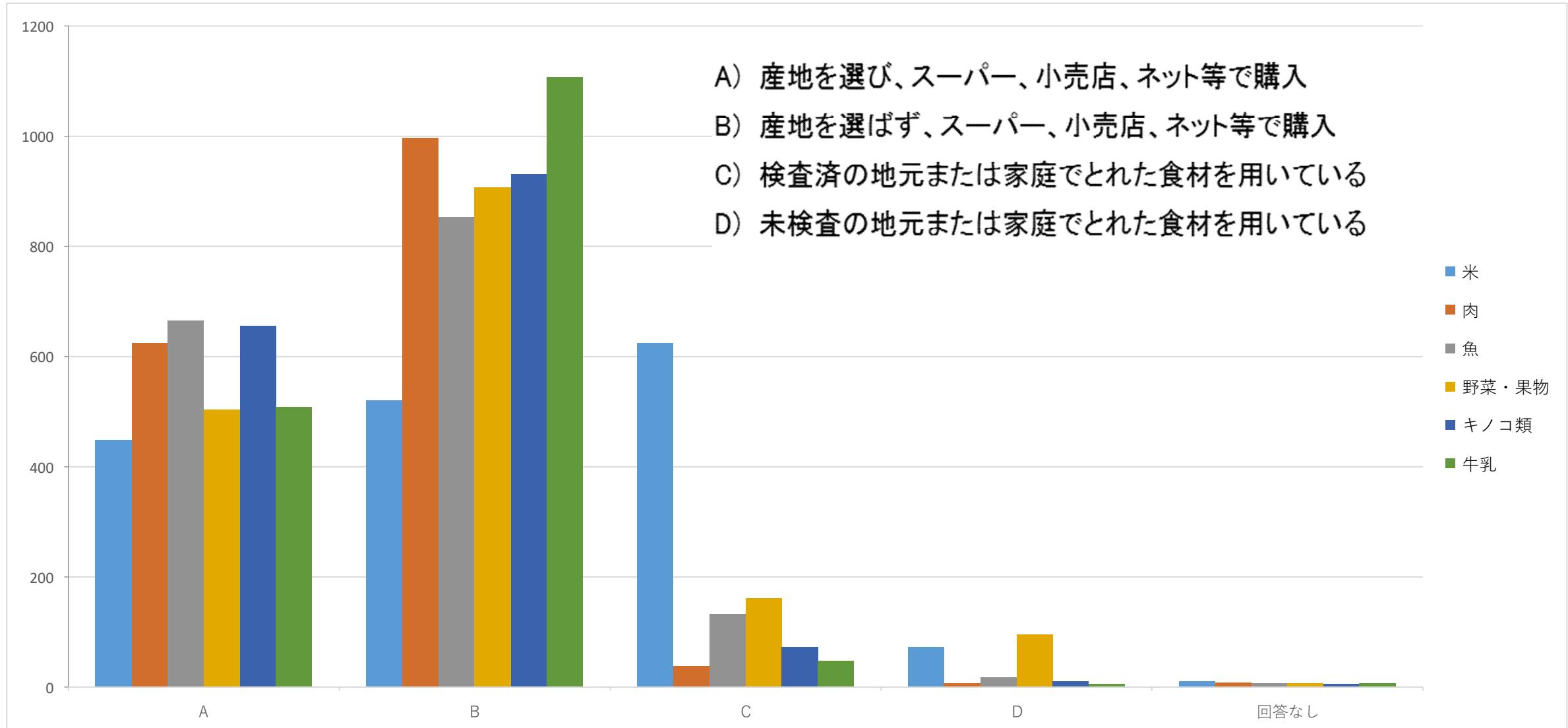


図 6-1

自宅の飲料＆調理水の種類

一般+学校検診

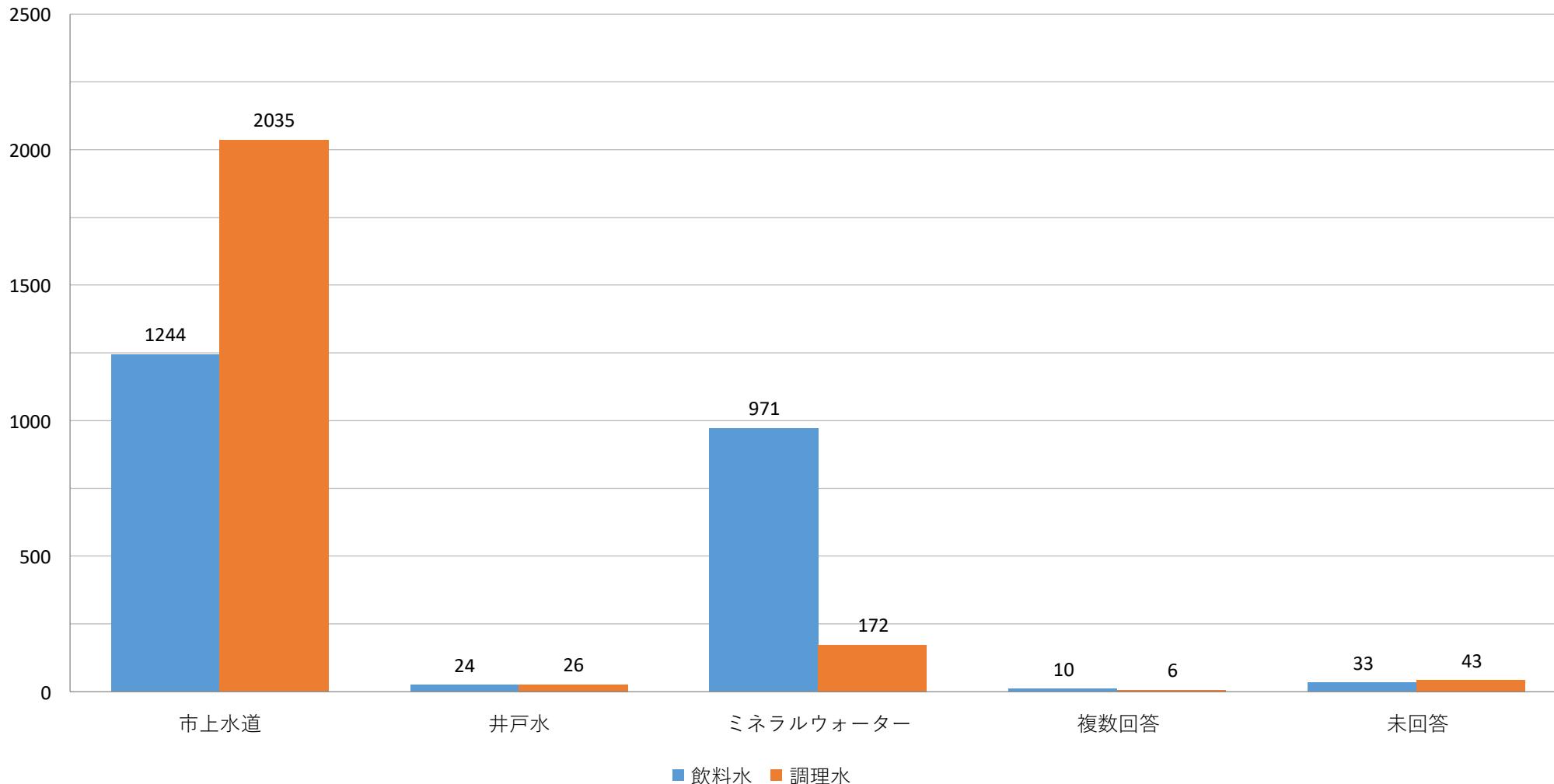


図 6-2

自宅の飲料＆調理水の種類

学校検診のみ

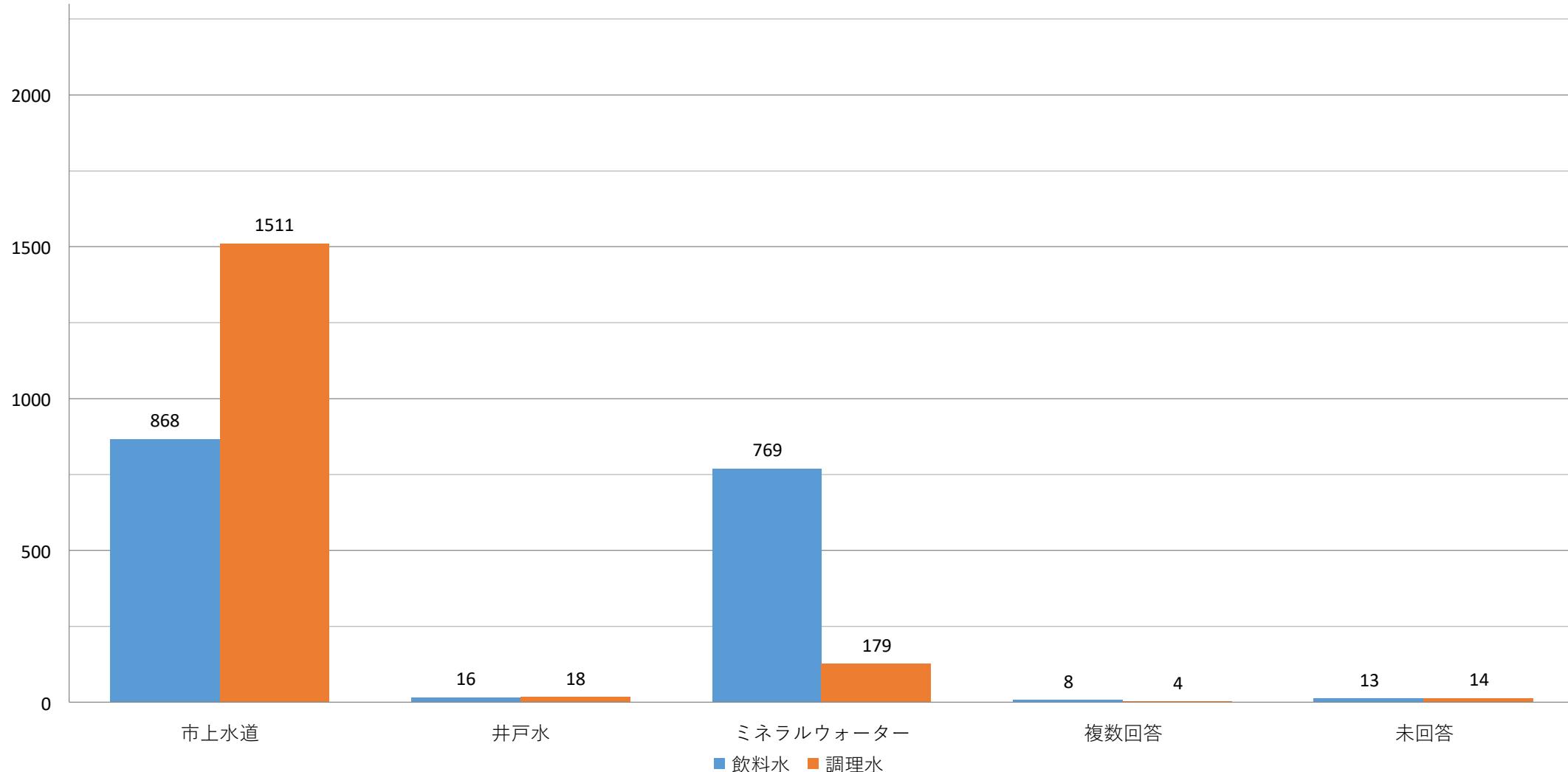


図 7-1

今後のWBC検診について

一般+学校検診

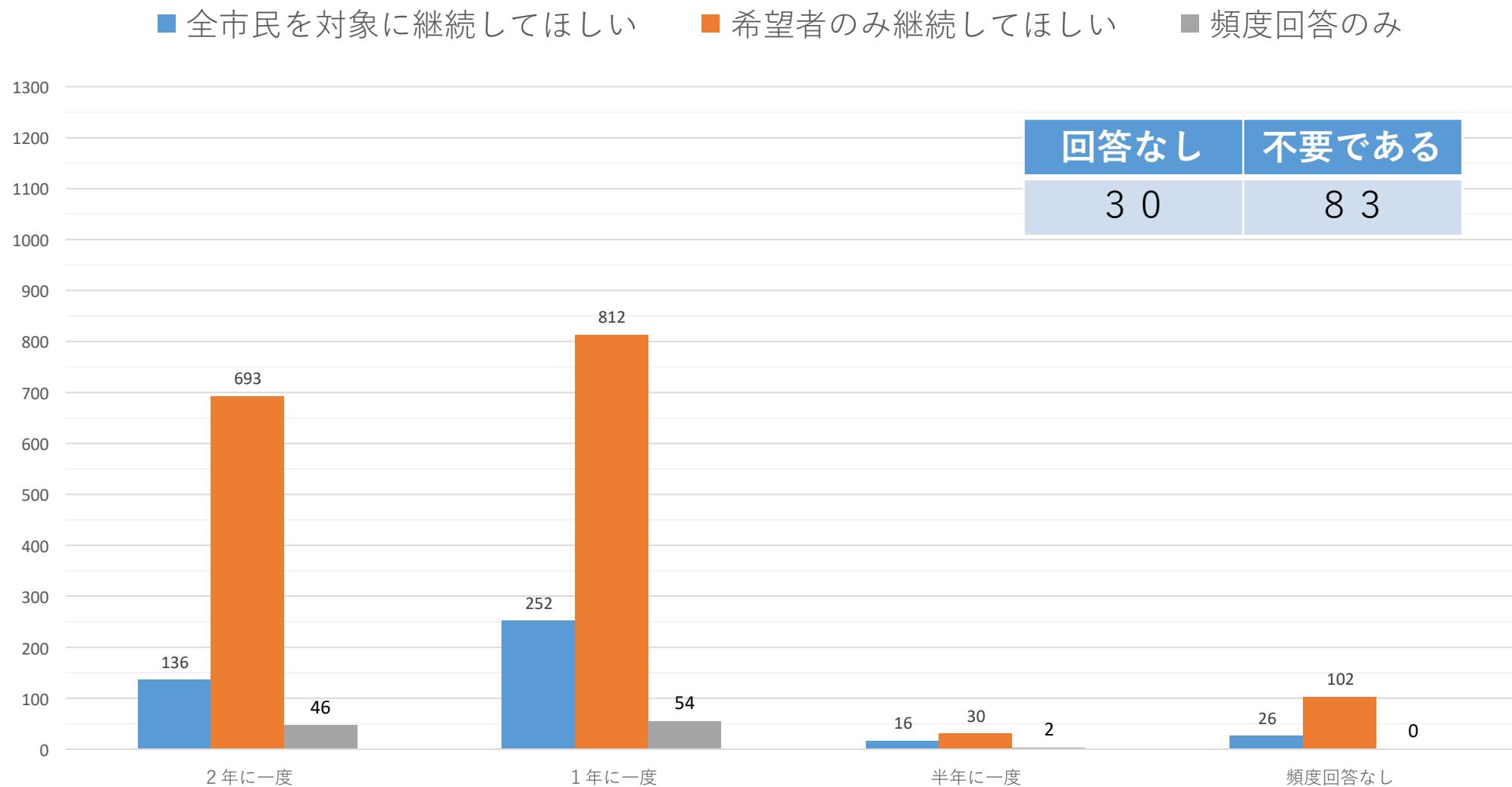


図 7-2

今後のWBC検診について

学校検診のみ

